

# 2017年8月インターンシップ希望学生傾向調査

## 調査概要

### 【調査1:インターンシップ希望学生】

調査対象: インターンシップを希望する学生が実施した性格・価値観テスト「3E-p」

調査期間: 2017年6月13日～2017年7月21日

調査方法: Webによる受検

サンプル数: 459名

### 【調査2:社会人転職希望者】

調査対象: 転職活動において実施された性格・価値観テスト「3E-p」

調査期間: 2017年6月13日～2017年7月21日

調査方法: Webまたはマークシートによる受検

サンプル数: 500名

調査目的: インターンシップを希望する学生の性格・価値観の特性を分析し、公表しています。この調査結果により、企業はインターンシップ希望者の特性を把握することができ、採用時のミスマッチを減らす一助となります。

## 調査結果

### <インターンシップ希望学生・社会人転職希望者傾向>

インターンシップ希望学生は「意思伝達力」「発想性」「変革性」などが社会人転職希望者よりも高い

インターンシップ希望学生は同受検時期の社会人転職希望者に比べて「変革性」「発想性」「意思伝達力」「決断性」「理想と現実とのギャップ」の耐性などは高いが、「協調性」「論理性」「対人調和力」「評価・評判」の耐性などは低い結果になった。キャリアタイプ指向性ではインターン希望学生は「自立」「チャレンジャー」「アントレプレナー」が高いが、「安定志向」「社会奉仕」は社会人転職希望者の方が高い結果だった。

### <インターンシップ希望学生の男女別傾向>

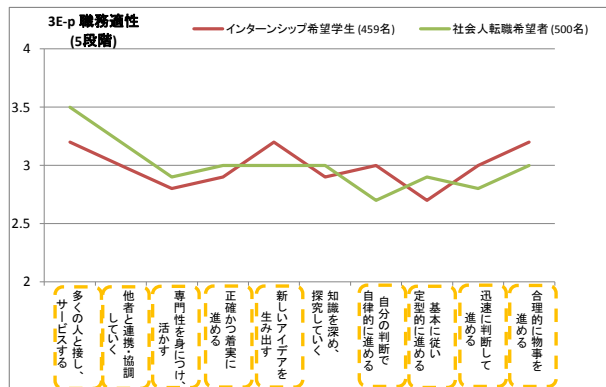
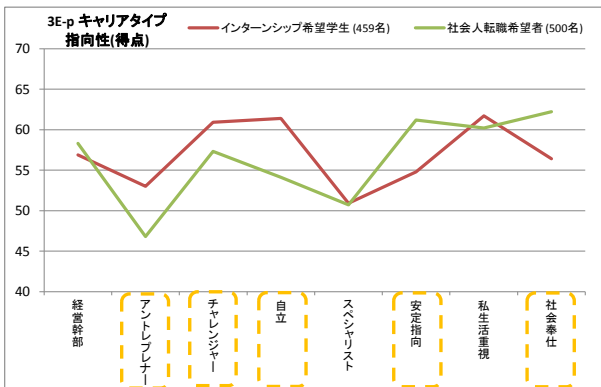
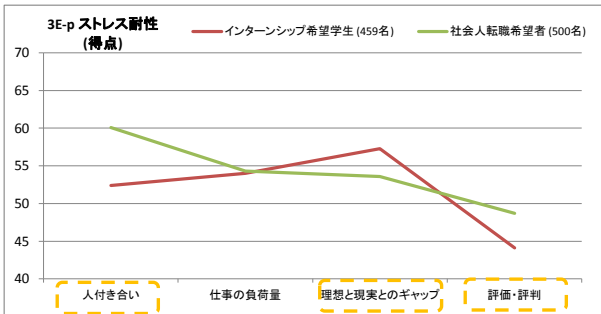
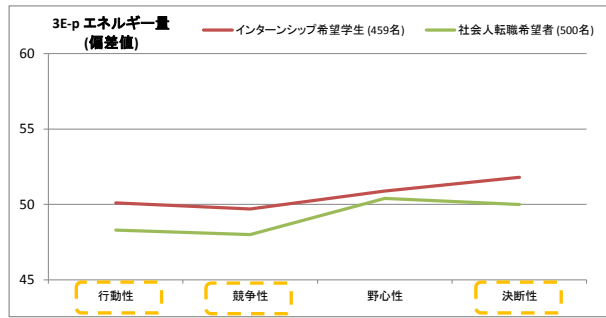
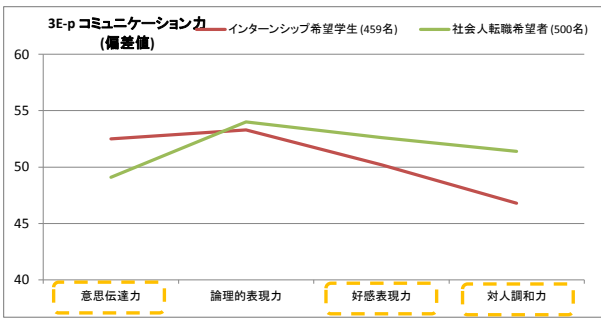
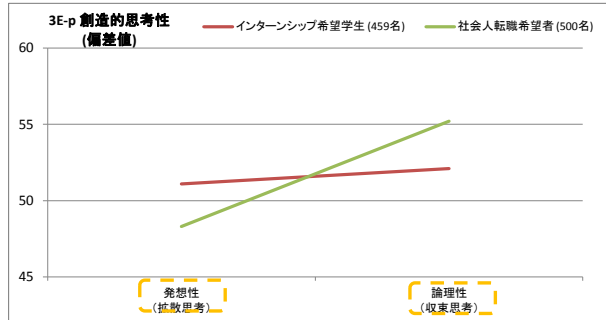
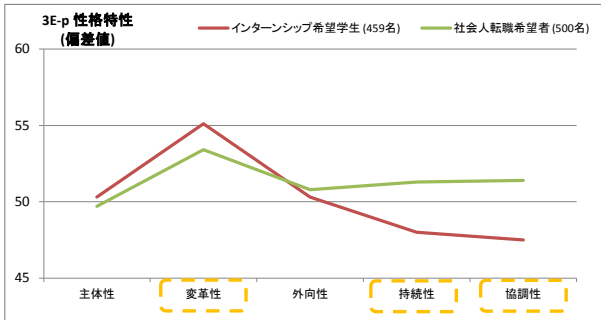
インターンシップ希望学生において、男性は「論理的表現力」「主体性」が高く、女性は「持続性」「対人調和力」が高い  
インターンシップ希望学生の男性と女性を比較すると、男性は「論理的表現力」「論理性」「主体性」などが高く、女性は「持続性」「協調性」「対人調和力」が高くなっている。エネルギー量において全体的に男性の方が高い傾向が見られる。キャリアタイプ指向性において、男性は「自立」「チャレンジャー」「経営幹部」「アントレプレナー」が女性よりも高く、女性は「安定志向」「スペシャリスト」が男性よりも高い。

### <インターンシップ希望学生の文理別傾向>

インターンシップ希望学生において、文系は「社会奉仕」、理系は「合理的に物事を進める」で差が見られる

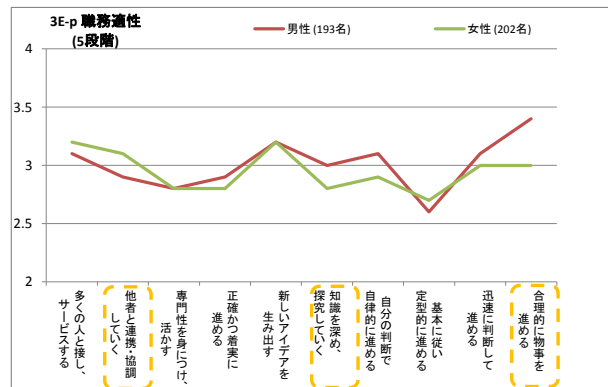
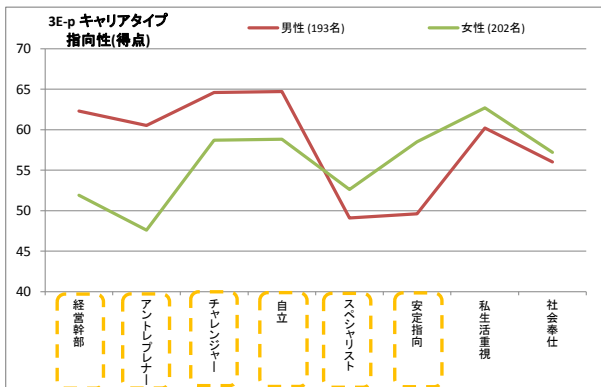
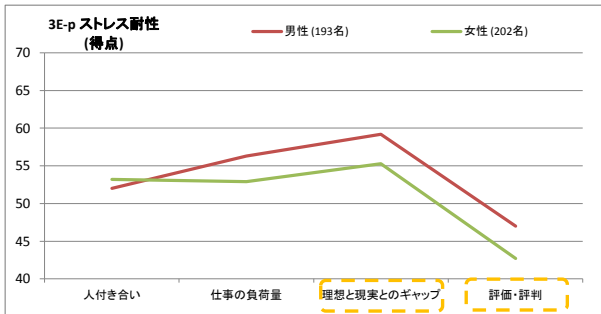
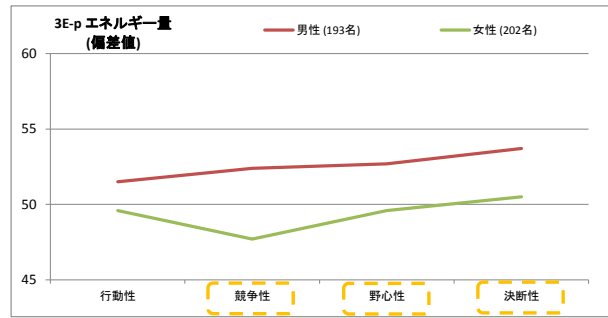
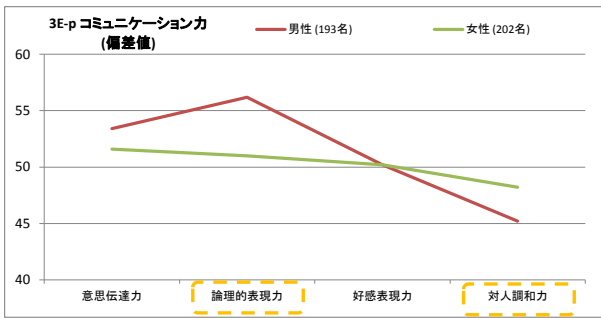
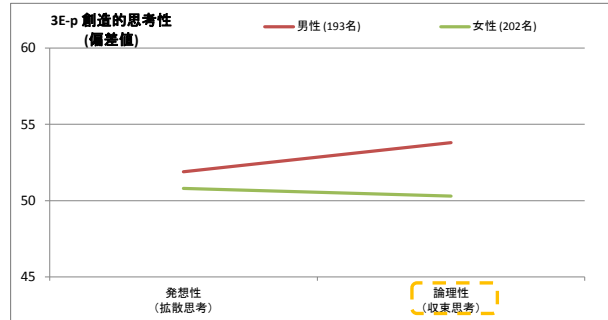
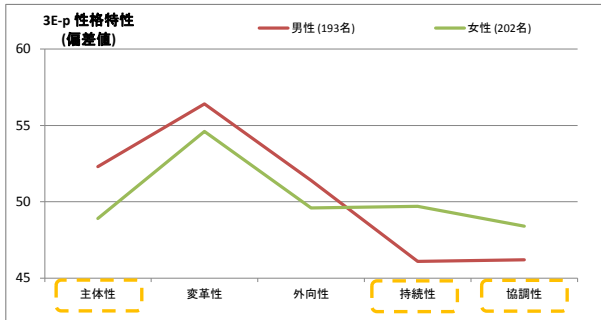
インターンシップ希望学生において、キャリアタイプ指向性では文系は「社会奉仕」が理系よりも高くなっている。職務適性では理系は「合理的に物事を進める」が文系よりも高くなっている。

インターンシップ希望学生は「意思伝達力」「発想性」「変革性」などが社会人転職希望者よりも高い  
 インターンシップ希望学生は同受検時期の社会人転職希望者に比べて「変革性」「発想性」「意思伝達力」「決断性」「理想と現実とのギャップ」の耐性などは高いが、「協調性」「論理性」「対人調和力」「評価・評判」の耐性などは低い結果になった。キャリアタイプ指向性ではインターンシップ希望学生は「自立」「チャレンジャー」「アントレプレナー」が高いが、「安定志向」「社会奉仕」は社会人転職希望者の方が高い結果だった。



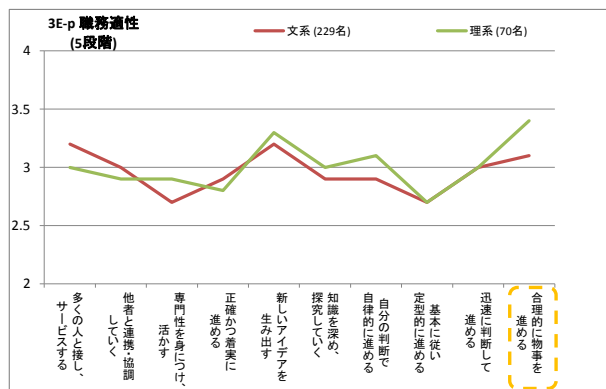
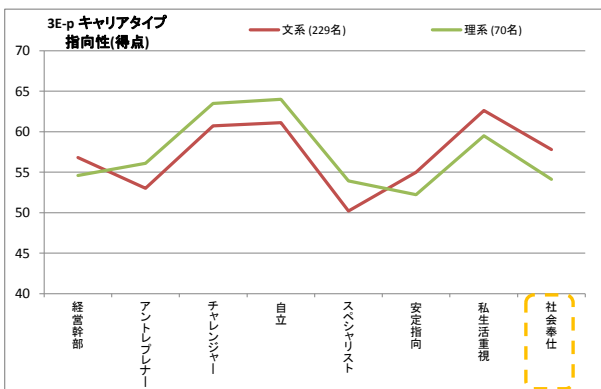
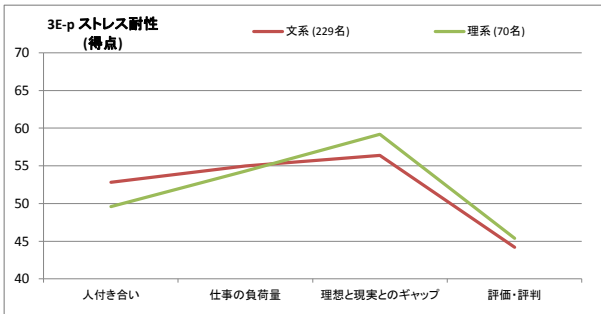
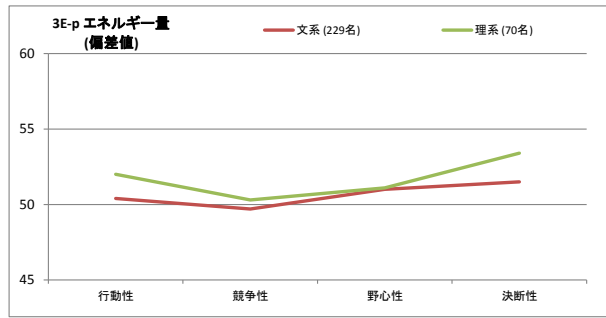
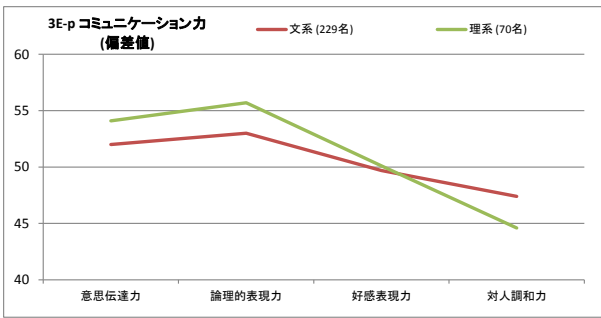
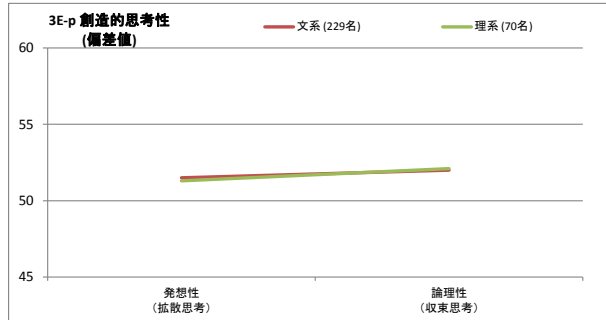
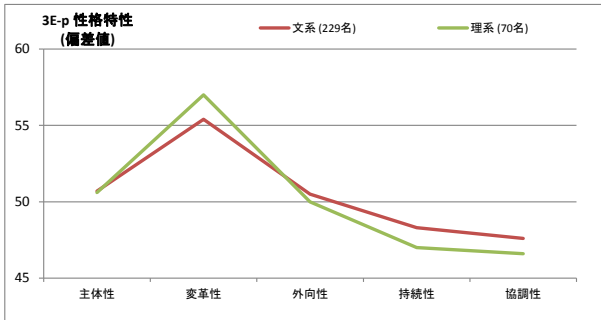
で囲まれた項目は、統計的に5%の有意水準で違いが認められました。

インターンシップ希望学生において、男性は「論理的表現力」「主体性」が高く、女性は「持続性」「対人調和力」が高い  
 インターンシップ希望学生の男性と女性を比較すると、男性は「論理的表現力」「論理性」「主体性」などが高く、女性は「持続性」「協調性」「対人調和力」が高くなっている。エネルギー量において全体的に男性の方が高い傾向が見られる。キャリアタイプ指向性において、男性は「自立」「チャレンジャー」「経営幹部」「アントレプレナー」が女性よりも高く、女性は「安定志向」「スペシャリスト」が男性よりも高い。



で囲まれた項目は、統計的に5%の有意水準で違いが認められました。

インターンシップ希望学生において、文系は「社会奉仕」、理系は「合理的に物事を進める」で差が見られる  
 インターンシップ希望学生において、キャリアタイプ指向性では文系は「社会奉仕」が理系よりも高くなっている。職務適性では理系は「合理的に物事を進める」が文系よりも高くなっている。



で囲まれた項目は、統計的に5%の有意水準で違いが認められました。